



令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくり
プラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

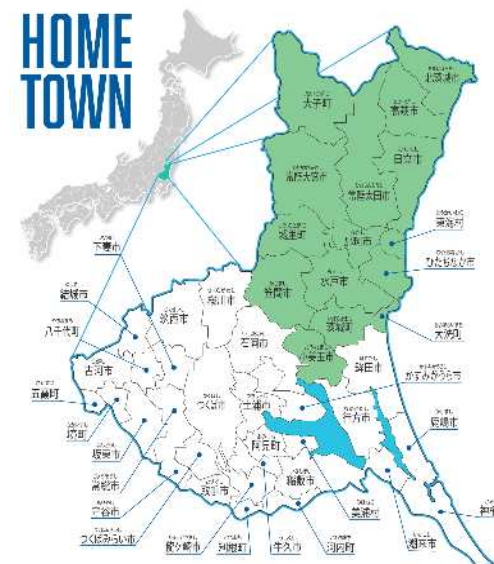
- ・ 活動団体名：株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
- ・ 活動地域：ホームタウン 茨城県央・県北15市町村

活動におけるテーマ

『新しい原風景をこの街にホームタウンのみらいダイアログ』

活動団体および活動地域の紹介

- 株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックは、茨城県央・県北地域の15市町村をホームタウンとし、現在J2リーグに加盟しています。このクラブは地域社会と一体となったクラブ活動を行う市民クラブです。
- 茨城県は農業の生産額が全国3位と盛んである一方、農業従事者の高齢化が進み、耕作放棄地も年々増えてきています。そこで、我々は2021年より「GRASS ROOTS FARM」を立ち上げ、地域課題である「農業」に自ら携わり、クラブハウスのある城里町の耕作放棄地、約1,000m²の畑でのニンニク栽培をはじめ、ホームタウンの農産物や特産物のPRや販売なども実施しています。
- <https://www.mito-hollyhock.net>



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～	
事業全体の予定			◆キックオフミーティング				◆中間共有会					◆成果報告会	
外部との対話 地域のキーパーソンとの取組		第3回ホームタウンの未来ダイアログ開催		スクール生向けアウトドア・環境体験実施	ホームゲーム内原ファーム出店				未来ダイアログ参加者へ個別でのコミュニケーション		ホームゲーム招待、農家出店予定	プロジェクトの協業	
クラブ内での対話の取組			プラットフォーム事業の活用方法の検討 農業部→クラブ全体 関東事務所・関東EPO相談						チーフミーティンググループワーク×環境省実施				
GXプロジェクト 「水戸ホーリーホックス的地域循環型社会創り」		2023 Jリーグチャレン! アウォーズ「明治安田地元の元気賞」受賞「新しいフツウを子どもたちからプロジェクト～大豆ミートバーガー編～」	Jリーグからソーラーシェアリング紹介	GXプロジェクト企画書作成 明治安田生命プレゼンテーション		常陽銀行提案プロジェクトへのスポンサード・協働について	城里町長企画提案企業版ふるさと納税の活用・ソーラーシェアリングによる売電の相談	城里町内での圃場探し	環境事業への取り組みの社内共有準備・計画		GXプロジェクト 全社共有	クラブから公式リリース 5月予定	

今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「ホームタウンのみらいダイアログ」

【活動内容】

ホームタウン内で様々なジャンルで活躍するキーマンによる地域課題の抽出するワークショップと地域課題を解決する新しいアクションプラン作りを目的としたワークショップの実施とプラットフォームとなるコミュニティ創出

【成果や気づき】

- ・ローカルSDGsマップのマンダラ作成。
- ・関わったキーマンとクラブによる新しい取り組みの実施（スクール生に対する環境教育を実施、クラブの開発商品の食育プロジェクトの企画 中）

クラブ全体の取り組みとするにはハードルを感じた。担当部署ごとの視点の異なりやステークホルダーが多いことによる人選の難しさ。

クラブ内での取り組みの順位付けやリソースの配分時の判断が難しい

【活動の様子】



取組②「社内ワークショップ」

【活動内容】

プラットフォーム事業の推進にあたり、クラブ内での視点の共有の必要性が分かり、チームミーティングの延長で地域循環共生圏・プラットフォーム事業の説明。グループワークを実施した。

【成果や気づき】

- ・テーマを決めての対話の場を作ることができた。
- ・参加者が想像以上に自分ごととして解釈し、意見がでてきた。
- ・クラブがやりたいことではなく、本当に地域から求められているのか？という視点をもっているスタッフも多く見られた。
- ・意見出しや対話は進むが、具体的な取組みを決めるためには工夫が必要。

【活動の様子】



取組③「GXプロジェクト」（事業の種）

【活動内容】

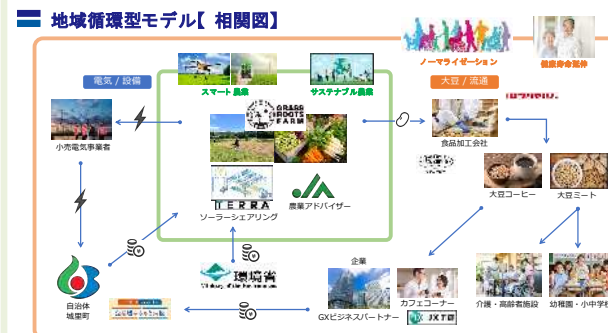
クラブとして環境に配慮した取組みの総称。事業案として耕作放棄地でのソーラーシェアリング農場での大豆を栽培を計画。

気候変動への取り組みと大豆による加工品開発による健康促進の取り組み。気候アクションを中心とした環境への取り組みの啓蒙になる取り組みを実施していく。

【成果や気づき】

- ・地域循環事業の一つのモデルとして具体的な仕組みとアクションを企画、推進することができている。
- ・多くのステークホルダーに企画を提案し、巻き込むことができている。
- ・プラットフォーム側ではなく、クラブ主体のプロジェクトなので、地域との協働の視点が欠けないように注意が必要。

【ソーラーシェアリング事業のスキーム案】

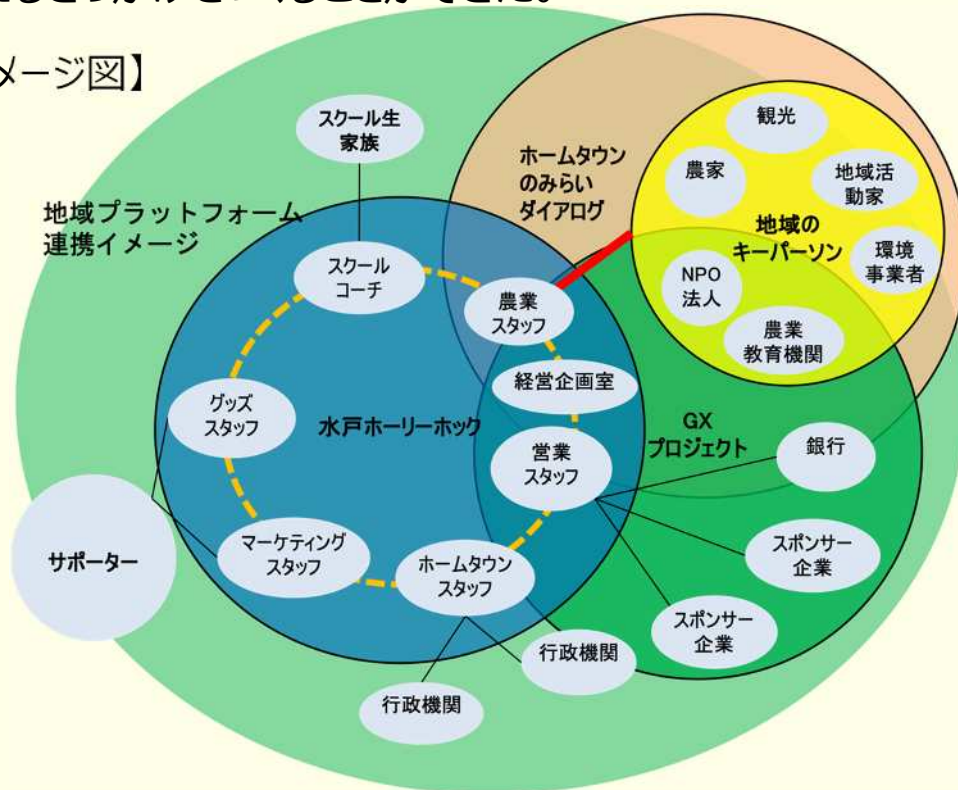


・現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- みらいダイアログを通じて関係性ができたキーマンとは個別で連携した取り組みはできているが、プラットフォームとしてどう機能していくかという点については、まだ深められていない。
- マンダラワークショップにクラブスタッフも参加したことにより、クラブ内での地域課題の共通認識ができ、社会連携活動について考えるきっかけをつくることができた。

【現状のイメージ図】



【地域プラットフォームの変化】

- みらいダイアログ・マンダラ作成の実施から、クラブとしてどう向き合うべきなのかという新しい問いが生まれ、クラブ内で話し合う機会が必要になった。
- 当初農業部の取り組みとしてスタートしたが、現在は地域循環共生圏がクラブ全体で取り組むテーマとして扱われはじめ、GXプロジェクトの考案に至った。
- クラブ内のクラブスタッフの多くが自分たちが地域のハブになるべきという思いを持っていることが確認でき、個人や部署ごとの地域との関係性への意識は強まってきている。

プラットフォーム形成のポイント

地域のビジョンを描く

- マンダラの範囲が広いので、隅々まで理解するのは難しい
- 広く地域課題を把握しながら、ビジョンを描く時に視点が定まりづらい
- クラブ内でも部署や個人により視点や優先順位が異なる。
- クラブとしてのビジョン・ブランドプロミスを内外共に浸透させる必要性
- ビジョンや言葉の解釈も個人によって異なるので、対話が必要

仲間を探す

- 地域の課題出しではジャンル・セクションのバランスが偏らないように
- 自社の事業の利益を超えて社会や公益性視点で考えられる人材
- 専門的な視点から解像度の高い話ができ、主体性がある人
- ステークホルダーが多く、テーマを絞らないと難しい。
- スポンサー企業への声かけの理由付け、順番付けが難しい

体制を整える

- 地域のキーパーソンとクラブスタッフのタッチポイントを増やす
- 互いにアクションを応援し合える空気づくり、事前の声かけ根回し
- みらいダイアログにより多くのクラブスタッフを参加させる
- マンダラをクラブ内で共有して理解を深めてもらう
- クラブ内での理解を高める為の対話の場づくり

全ての項目は
互いに関わり
あり、
順不同

事業を生み出す

※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

- クラブ内での取り組みの位置付けの優先度を上げる工夫
- クラブの意向と合わなければ事業としてリソースを割けない
- アイデアを実現させる具体的なアクションまで時間が足りなかった
- 既に取り組んでいる活動をきっかけにして事業を考える
- 活動の見える化をしてコラボレーションの機会を増やす

事業を考える

- スポーツクラブだからアプローチできる地域課題を考える
- マンダラを活用して地域課題を解決するアイデアを出し合う
- 地域課題とステークホルダーの事業リソースの相性から考える
- 収益性も含めた継続的に事業のタネが生まれる“仕組み”を考える
- 各プレーヤーごとに提供できるリソースを持ち合い共有する

・取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

成果

- プラットフォーム事業をきっかけに地域のキーパーソンとの対話の場作りができた。
- 地域の課題を解像度高く理解することができ、日常的に情報交換や取り組みの共有などをする関係性を作れた。
- 地域のキーパーソンとの関係性からクラブの活動で連携した取り組みを実行できた。



- クラブ内でテーマを設定してのワークショップを実行することができ、対話をして様々な立場の意見を出し合う経験ができた。
- GXプロジェクトというクラブとして環境視点での新たな取り組みのきっかけをつくることができた。

課題

- 当初農業部が担当した取組だったため、他部署への共有や巻き込みに苦労した。クラブ全体として取り組めないプラットフォーム化せず、プロジェクトの推進自体が難しい。
- 現況をふまえての対話の場作り、プロジェクトの推進ともに工夫が必要と感じた。課題出しのワークショップとアイデア出しのフェーズでテーマの絞り込みと人選が必要だった。
- クラブ内でも個人ごとに理解が異なるので、目線を合わせていくために、対話の積み上げが必要。
- クラブ内での対話の積み上げを優先したので、外部と対話する取組みは中断している。
- 民間事業者として収益を念頭におかなければ、取り組みを継続的に推進していくことが難しい。すぐに収益につながらない地域のキーパーソンとの関係性の構築の優先度が下がってしまう。

・活動における今後の展望

①ホームタウンに寄り添い、地域課題に向き合い続ける

ホームタウンのみらいダイアログで繋がった地域のキーパーソンや各ステークホルダーとの対話のなかで、地域課題の理解に努め、地域での社会的なアクションを実践し続ける。

②クラブ全体で対話を続け、地域のハブとなり情報を流動させる

本事業で実施したような社内の対話を継続し、クラブのビジョン・ミッションに向き合い続け、クラブ内での情報を流動させることで、地域から必要とされていることに取り組める体制を作る。

水戸ホーリーホック

ビジョン：夢と感動と一体感の共有に向けて、地域に根ざし、地域と歩み、地域に貢献し、地域と共に発展します。

ミッション：人が育ち、クラブが育ち、街が育つ

③水戸ホーリーホックを取り巻く環境全体の地域循環プラットフォーム化

GXプロジェクトのようなステークホルダーの多いリーグクラブだからこそできるプロジェクトを推進し、地域課題にチャレンジし続けることで、地域全体の活動の旗振り役になる。